

和歌山県・復興した観光地 熊野

～神秘性に健康加えて発信～

日本不動産研究所 和歌山支所
不動産鑑定士 土田 正顕

近畿支社
不動産鑑定士 海野 雅由

熊野は紀伊半島の南部に位置する地域である。そもそも熊野とは、①「クマ」を古語の神（クマ）と解し「神の宿る地」とする説、②「隅（くま＝すみ）と解して「辺境の地」とする説、③「こもる」と解して「樹木が鬱蒼と茂る地」とする説等種々の説があるといわれている。現在は自然豊かで、温泉もある観光スポットとなっている。

昨年9月、台風12号が紀伊半島を襲い、和歌山県南部を中心に各地に大きな被害をもたらした。土砂崩れによる道路の寸断、河川の増水による橋梁の流出のほか、多くの家屋が浸水・損壊又は流出し、死者・行方不明者が50人を超える歴史的な災禍となった。世界遺産の熊野那智大社では裏山が崩れ、本殿の一部が土砂で埋まる被害が発生した。懸命な災害復旧の結果、現在は道路及び鉄道等の交通手段が回復し、ほぼ従前の姿に復興している。



「2点とも、昨年9月の台風12号で2メートル以上浸水した旧本宮町中心部」

熊野は古くから神が宿る土地とされてきた。江戸時代、熊野古道は熊野を目指す旅人により行列ができた参詣道であり、平成16(’04)年7月には「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された。現在では起伏に富み、自然が豊かなため、トレッキング・ウォークコースとして人気があるだけでなく、パワースポットとしても注目されている。



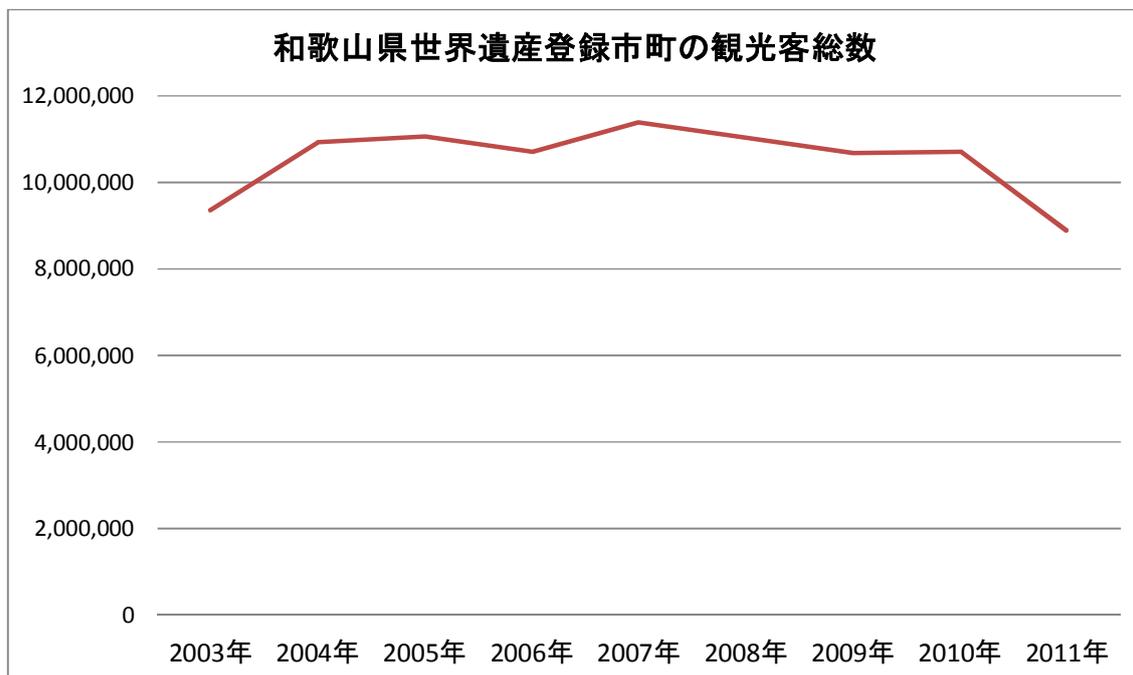
「世界遺産登録地・熊野にある小栗判官蘇生の地、湯の峰温泉」



「その温泉地の中を東西に走る熊野古道」

また、NHKの大河ドラマ「平清盛」が現在放送中であるが、熊野には「平忠度」生誕の地や「平維盛」の入水した地等平家ゆかりの地がいくつかある。

和歌山県の観光客総数は平成23(’11)年度で約27,617千人(対前年比約89%)で、そのうち世界遺産登録市町(九度山町、高野町、旧かつらぎ町、旧中辺路町、旧本宮町、白浜町、すさみ町、新宮市、那智勝浦町)は約8,901千人(対前年比約83%、過去からの推移はグラフ参照)と、昨年3月に発生した東日本大震災及び9月の台風12号の影響で大きく減少した。



和歌山県商工観光労働部観光局の「観光客動態調査報告 平成23年」のデータに基づいて作成

観光資源に富むことから、和歌山県は平成21(’09)年12月に観光立県の実現を目指すために「和歌山県観光立県推進条例」を制定した。また、その具体的計画として「和歌山県観光振興実施工動計画」を定め、さらに、平成24(’12)年度は「復旧・復興から挑戦へ」を掲げてキャンペーン等を行っている。その実施工動計画においては、「紀伊山地の霊場と参詣道」を県を代表する観光資産として位置づけ、神が宿る地（パワースポット）及び熊野古道健康ウォーキング等を前面に出し、新たな客層の掘り起こしとしてその魅力を「山ガール」等に発信する試みがなされている。

熊野は京阪神方面等からやや遠いが、素晴らしい自然が残り、懐が深く、非常に神秘的で魅力ある地である。それを今後も保護しながら観光資源として活かし、多くの人々に熊野を訪れてもらい、ぜひ昔の「蟻の熊野詣」のような賑わいを取り戻したいものである。